

2017年

「心の扉を開いたら」

琉球新報

2017年 1月21日

交流・活動で広がる学び

花城 重子

〃 2月18日

リハビリ通し医療格差実感

島袋 貞夫

〃 3月18日

一緒に楽しむ機会を

又吉 朝子

〃 4月15日

目標をもって行動すること

石川 泰考

〃 5月20日

いつも感謝し友の会参加

宮城 幸徳

〃 6月17日

経過措置後の負担金増危惧

又吉 忠常

〃 7月15日

アングを楽しみながらリハビリ

又吉 朝子

〃 8月19日

会員の声届ける会報誌

又吉 朝子

〃 9月16日

ピア同士で支え合おう

太田 守光

〃 10月21日

社会参加支援施設の必要性

又吉 忠常

11月18日

会への相談が安心感に

上門 敦子

12月16日

若者達へあじあじ

島袋 貞夫

心の扉を

開いたら

患者会・福祉団体便り

私は、夫ともども「パーキンソン病友の会県支部」の役員を務めています。活動の中で見えたことがたくさんあります。これまでは病気のことで自分の症状しか分かりませんでした。しかし、たくさんの方と話すうちに、パーキンソン病の症状がそれぞれ違うこと、対処の仕方や薬の種類や組み合わせなど、本などで学ぶ以上に知ることが多いです。

役員会の後の雑談でも貴重な情報があります。全国の各支部から届く会報誌に収められた講演会の報告から得るヒントや、全国本部から得る大事な情報などを事務局長が出してきます。その話を聞く機会に恵まれます。私たち支部の会報誌「みのり」に掲載するには多すぎて、交流会で伝えるには時間が足りません。その情報は、役員たちの役得だとありがたく思います。

パーキンソン病は指定難病(特定疾患)に入っています。指定難病に入ることでも簡単ではないそうです。先輩方が血のにじむ運動で勝ち得たそうです。2006年にパーキンソン病が特定疾患治療研究事業から外されそうだったという二

2017年、1月21日

交流、活動で広がる学び

ユースが流れました。全国都道府県の支部と本部が一致団結して街頭に立ち、抗議の署名活動や募金活動をしたり、患者の生の声を厚労省に訴えたりしました。それを過去のことと捉えず、希少性要件などを理由に指定難病から外されるのではないよう、完治療法が確立されるまでもっと力を結集して署名などを集めて厚労省に訴え続ける必要があります。パーキンソン病の人だけでなく、皆さまの力も貸してください。

昨年6月、第40回全国総会が宮城県で開催されました。初参加で緊張しましたが、多くの方との出会いがあり、勉強になりました。懇親会も工夫されていて、総勢34人の病気に精通した先生が、各テーブルにおいて参考になるお話しを伺うことができました。

その席で栃木県の田村さんと知り合いになりました。事務局長がいつも「パーキンの仲間は、みんな家族なんだよ」と話しています。同じことを田村様も話していましたので、本当に家族が増えたようですね。話をかけてお互いの近況報告をしたりしています。その時に田村さんが治験を受けているとお話しなされたことを思い出しました。そして私も治験を受ける機会に恵まれました。

全国パーキンソン病友の会県支部 島袋 貞夫

心の扉を開いたら

患者会・福祉団体便り

最近、私のパーキンソン病症状は体の動きの悪い時間帯が多くなってきたので、自分の状態を改善したいという気持ちで京都にある宇多野病院への入院を決めました。そこで行われるリハビリの「BIG」は、体の動きを大きく集中的に訓練することで動きの遅さや動作の小ささに代表される運動障害を改善することを目指して作られたプログラムです。最終目標は日常生活で大きな動作が行えるようになることです。(運動機能障害に対する治療法)

「LOUD」は、声帯周囲を刺激して声を大きくして、発声練習を行うことにより、話すメカニズムを改善するためのプログラムです。最終的な目標は、話し方の明瞭さを最大にするために呼吸器、咽頭、整体などの発音のための機能を改善することです。

(発語障害に対する治療法)

入院翌日から血液検査が始まりました。沖縄では受けたことがなかった検査項目もありました。現在飲んでいる薬と本人の状態などを、主治医が確認しながら薬を調整していきます。リハビリ治療が始

実感格差医療し通しリハビリ

まると薬の調整はありません。変更すると状態の良しあしですが、リハビリの効果か分からなくなるからだそうです。

「BIG」も「LOUD」もマンツーマンでじっくり行われ、すごい運動量です。リハビリを受けたことで体の動きが良くなりリハビリの重要性を改めて感じました。このリハビリを沖縄で受けることはできません。「BIG」も「LOUD」も資格を持った理学療法士しか行えません。初めて本土で治療を受けたことにより、医療格差、地域格差を感じています。

私は家族や周りの協力があったり、京都に行くことができたが、パーキンソン病は長期にわたる療養生活を送ることになります。その中で自分に合った治療をどこにいても受けられるように、国は対応を考えてほしいです。

話は変わりますが、京都で入院した時に感激したことがあります。それは、友の会県支部の又吉支部長が宇多野病院に入院した時に同室だった京都在住の高橋さんのことです。沖縄から宇多野まで私が入院に来ていることを知り、何度も病院に訪ねて、私を励ましてくださりました。高橋さんに感謝の気持ちでいっぱいです。又吉支部長、事務局長の付き合いの幅の広さを感じたことでもあります。

心の扉を開いたら

患者会・福祉団体便り

パーキンソン病友の会県支部は、交流会、講演会の他、新年会、バスツアーなども企画します。その時に寄せられた声から一部を紹介します。

◇ ◇
今回、恥ずかしながら私は、幕開けで三味線を弾くことになりました。舞手の方(2人)の「かきやまふー」、四つ竹も、私たち三味線、琴に合わせてくださり何とかやれました。皆さん、静かに聞いてくださり、ありがとうございます。地謡をするのも全く初めて。会場にはもっと上手な方もおられます。リハビリのつもりで、これから共に勉強(練習)できたら、よい事だと思えます。同好会、もいかなと思えます。集いは楽しさがいっぱいです。素晴らしいですね。

◇ ◇
次は友の会を立ち上げてくださった方の言葉です。
(新年会がくる)「この日を待ちかねていました。きくと楽しいだろうと思っていました。が予想通りでした。皆さんのお話を聞くことは本当に勉強になります。始まる前に踊ってくださった方、地謡をして

一緒に楽しむ機会を

くださった方、お琴を弾いてくださった方々の姿を見て、ああ「こういう世界もあったんだと、改めて恩いを巡らせていました。今日参加してホッとしました。以前からの友人、知人に会えたからです。「あつ、彼女も元気だった」「彼もそうだね」と懐かしく思うのです。

◇ ◇
次はバスツアーに参加された方の声です。
今日は天気もいいし、たくさんの方々が集まり楽しい一日になりました。久しぶりにユイんチホテルでグラウンドゴルフができてよかったです。主人は少しだけでしたが楽しそうでした。家では「あれ、ちようだいー、これ、ちようだいー」というので、私も少々疲れ気味です。でも、こちらに来て、皆さんの顔を見るとちよつと疲れがとれたようです。毎日30分程歩けをやっていきます。「少しは主人の役に立っているんだね」と自分で自分をいたわっています。主人が「大変だな」と願を見てそろそろ思っ今日この頃です。また今日みたいな楽しい日を計画してほしいです。

◇ ◇
これからも楽しい思い出を皆様と重ねていきたいです。友の会連絡先 ☎090(82)94(1)974(又吉)。

心の扉を開いたら

患者会・福祉団体便り

病気には薬の服用とリハビリが欠かせませんが、心の持ち方によっても、変わってくるのではないのでしょうか。病名が告げられた頃の私は、何をやる気も起こらずボーッと生気の抜けた顔で、猫背になって歩き、よく「大丈夫か」と声を掛けられていました。

その頃、宮古島から本島の病院へ検査入院した時に先生から「好きな事はないですか」と話し掛けられ「絵を描くことが好きだ」と話すと、リハビリの一つとして絵を描くことを勧められ、本格的に描き始めました。それから毎日充実し、病を隠すことなく積極的に話して理解を得られるようになりました。

展示会も実現し、市役所のロビーでの40点の作品展示から始まり、大きな目標にしていた100点の展示会も今年の2月に開催することができて、うれしく思っています。さらに思いもよらぬ展開が待っていました。この展示会を見た方がスポンサーになり画集を出版することが決まり、楽しみにしています。今は絵画サークル、太極拳サークル、吹き矢サークルにも入

目標をもって行動すること

り仲間が増えました。太極拳や吹き矢は腹式呼吸を使います。内臓を刺激しマッサーシ効果を得て心臓への負担も軽減します。吹き矢は20発吹くと30分のウォーキングと同じくらいのカロリーを消費します。効能は脳の活性化、心肺機能の向上、口腔ケア、集中力の向上、ストレス解消などがあります。

外に出て動き回っている私を見ている方からは想像もつかないかと思いますが、実際は家の中ではよく転びます。狭い場所での動きがスムーズにいかないからです。毎日を楽しく過ごすことを心掛け、目標をもって行動することが、自分の病気の進行を遅らせていると思います。家に閉じこもらず外に出ることにより、周りの雰囲気も明るくなります。病気になって失うものもありましたが、それ以上に得るものや学ぶことがたくさんあります。月に2回、宮古保健所でポールを使つてのリハビリ、歩行訓練などを行っています。参加しませんか。

4月23日
(日) 12時
30分～那覇
市保健所3
階にて友の会の交流会
を開催します。多くの
方の参加をお待ちして
おります。連絡先 ☎09
0(8294)1974(又吉)。

通信欄

2017年 4/15(土)

全国パーキンソン病友の会県支部宮古ブロック長 砂川 泰彦

全国パーキンソン病友の会沖縄県支部 宮城 幸徳



患者会・福祉団体便り

私が、74歳でパーキンソン病と診断されて9年の年月が経ち、83歳になりました。診断をされた時に主治医から「平均寿命まで生きられるから心配しなくてよい」と言われたので、あまり強いショックは受けませんでした。

でも今は、時間が経つにつれ病気は確実に進行しており、薬の効く時間も短くなり、身体的に非常に不自由になっていますが「パーキンソン病友の会」の多くの友人が、私を支えてくれています。1年に約10回開催される交流会で、薬の飲み方、リハビリの仕方、病についての考え方、進行の状態などを聞くことができ大変参考になっています。

毎年恒例の新年会が1月にありました。幕開けに会員による(舞)「かぎやで風」「恩納節」「辺野古節」(三線・琴)「四ツ竹」でカリーを付け、その後に皆で「カラオケ」。時間が足りないほどでした。2月には、バスツアーが行われました。ユイランチホテル南城まで2台に分乗して歌声を楽しみながら、ここでは、温泉を楽しむ人あり、グラウンドゴルフを楽しむ人

いつも感謝し友の会参加

あり、カラオケを楽しむ人あり、その後はみんなでおいしい昼食タイム。これまた楽しい一日でした。4月の交流会には、アルゼンチン出身民族音楽奏者シルビオ・モレノさん一家の南米音楽演奏会鑑賞。シルビオさんもパーキンソン病歴20年になるそうですが、素晴らしかったですよ。

5月にはポールウォーキングの講習会を行う予定です。6月11日には「もっと良くなるパーキンソン病」と題して医療講演会が開催されます。名古屋大学脳と心の研究センターの渡辺宏久特任教授をお招きして最新情報を得たいと思います。沖縄県総合福祉センター「ゆいホール」にて、受け付けは正午からです。問い合わせは☎090(8294)1974(又吉)。

私たち「全国パーキンソン病友の会沖縄県支部」のいろいろな活動は全国的にも評価されていると思います。支部長の適切な助言、事務局長の抜群な企画力、本土との交流、人脈、事務処理の速さ、役員の支え、ボランティアの支え、会員家族の協力があればこそです。私は友の会に入会しているいろいろな方と楽しく集い学び、感謝、感謝の日々闘病の生活です。活動に参加することしかできませんが、これからも、感謝しつつ友の会に参加し続けたいと思います。

心の扉を開いたら

患者会・福祉団体便り

4月に国会へ請願に行きました。全国パーキンソン病友の会として毎年取り組んでいる事です。2015年度から始まった「難病法」が今年12月末で3年間の経過措置が切れます。その後どう変わるのか、当初の計画通りなら患者の負担額は大きくなるのではないかと危惧されます。

パーキンソン病は高齢化に伴い患者数が増える傾向にあります。患者数の要件として、現在は「0.1%」程度と解釈されていますが、超える可能性がありますが、不安な情報を抱えながらの闘病生活を回避してもらい、安心して治療に専念できるようにしていただきたいと切に願っています。

国会請願では、多くの国会議員の先生方、秘書の方から取り組みを伺うことができました。患者、家族の思いを先生方へお伝えしました。その後28人の方々が厚生労働省にも足を運び、私たちの思いや質問をぶつけ、具体的に丁寧に説明があったと、その夜の交流会で報告がありました。翌日から行われた第2回JPCにも関心を持っていただければと思います。JPCと

全国パーキンソン病友の会沖縄県支部支部長 又吉 忠常

2017年 6.17日 経過措置後の負担金増危惧

は患者、家族、専門医研究者、医療関係者などパーキンソン病に関わる人々が一堂に会し、情報交換や体験発表を通じて問題を共有し、パーキンソン病についての理解を深め、患者のQOLの向上を目指す集まりで、学会形式で行われます。2年に1度の開催となり、次回は2019年に京都府で行われる予定です。パーキンソン病の基礎知識から始まり早期診断の方法、治療法、認知やうつ状態、リハビリ、介護、福祉、オートファジー、嚥下障害、新薬、進行期のパーキンソン病の課題など25のシンポジウム、セミナーが2日間にわたり行われ、どれも見逃すことのできない貴重な情報交換の場となりました。

参加して心に残ったことは、薬とリハビリの関係を「さびた自転車」に油を注ぐようなものと例えて話されたことです。パーキンソン病で硬くなった身体に薬という油を差しても、動かさなければ思うような治療効果は期待できませんのではないかとのことでした。私が実践しているリハビリを今後も継続して今の状態を維持していけるよう頑張っていこうと思います。記事への感想、ご意見お待ちしています。パーキンソン病友の会・沖縄県支部 ☎090(8229)4-11974(又吉)。

2017年6月17日

心の扉を 開いたら

患者会・福祉団体便り

4月の交流会に南米音楽家シルビオ・モレノさんご家族をお招きしてフォルクロレを奏でていただきました。哀愁を帯びた歌声、奥さまのリンド・モレノさんとの息のびったり合った演奏、モレノさんが弾くギターの音色に吸い込まれるように聴き入りしました。彼は幾多の困難を乗り越えて沖縄にたどり着いたと話され、パーキンソン病歴19年で今もご自身が経営しているお店で演奏活動を続けていらつしやると聞き驚きを隠せませんでした。

又吉 朝子 全国パーキンソン病友の会県支部

お店へ伺った時も、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスからいらしたお2人の本場のタンゴ、激しく情熱的な踊りに魅了されました。そういえば最近、友の会で、タンゴセラピーという言葉をよく聞きます。2009年、米国・ワシントン大学セントルイス校で、体のバランス障害で歩行や方向転換の不安定といった障害を引き起こすパーキンソン病の患者が、タンゴを習うことで体のバランスを改善することができたとの研究結果も発表されたそうです。英国ではタンゴの複雑なステップが認知症患者の記憶向上に

タンゴを楽しみながらリハビリ

つながったという報告や、タンゴはアルツハイマー病、パーキンソン病、恐怖症、自閉症などの認知治療にも活用されているそうです。また、タンゴの発祥の地アルゼンチンでは、パーキンソン病を患ったタンゴダンサーが「自分の治療にタンゴが役立つ」ことを発見し、病院でタンゴのクラスを始めたそうです。

今年の全国大会開催地、神奈川県でも2015年春より「タンゴセラピーサークル」をスタートし、月に1度、講師の先生をお招きして患者、家族、友人らと、楽しいひとときを過ごしているそうです。運動機能の維持やリハビリに効果が出ていますとのうれしい報告を受け、実際にメンバーからタンゴダンス独特の抱擁アブラッソを見せていただきました。会場に呼び掛けもあり、背中が丸くなっている患者さんが、相手の方のリードで背筋が伸び、軽やかにステップを踏んでおられる姿に感動しました。楽しみながらのリハビリなど、取り入れていただけらなと思っています。

通信欄

23日 日那健に会
 (日) 市保階に会
 覇所3階交流
 受す。受け
 ます。午後0時30分。
 を開催します。午後0時30分。
 連絡先・全国パーキンソン病友の会沖縄支部 ☎090(8294)1974(又吉)

心の扉を 開く

患者会・福祉団体便り

私達パーキンソン病友の会
沖縄県支部では年に3回会報
誌を発行しています。以前は
年に4回発行していた時期も
ありましたが、今は3回発行
が限度です。会報誌を発行す
るに当たって、まず原稿を集
めることから始めますが、そ
れが意外と難しいのです。

そこで思っていたのが、交
流会や新年会、バスツアーと
いった行事を行った時に、参
加者の方へ感想等を書いても
らうというアイデア。記事が
増えてきています。また医療
情報等も掲載したいと思つた
者ちんとした情報、資料が必
要になってきます。他府県か
ら届く会報誌にも目を通し
て、いい原稿があるなと思つ
た時には即電話して、交渉し
ていただくこともあります。

年々回も厳しいなと思つ時
もありますが、会報誌を心待
ちにしている方がいらつしや
る。これが励みになります。会
報誌は会員の声を届ける後自
を棄たす大事なものです。

この原稿を書きながら、以
前の会報誌を手にとってみま
した。この文章を見つけれ
しく思いましたので紹介した
かと思ひます。この方は友の

会員の声届ける会報誌

会を立ち上げてくださった1
人でもあります。

〈前を向いて生きようよ。〉
1人じゃないんだから。進行
することはない。でも見るこ
と、話すことはできる。じゃな
いの。私以上に、厳しい人も
いる。そう思えば感謝の言葉
が出る。一生懸命生きていれ
ばまだ、きつと良いこともあ
る。素直に生きてこそ、明る
い人生。召される日が来るま
で。いいなあ、動けることつ
て。うまく歩けるなんて。寝
たきりの人に少し分けてあげ
たい。人は元気な時は気付か
ずにいる。簡単なしぐさも当
たり前と思ひ、障害者を見る
と心の中で「かわいそうに」
と思つただけで通り過ぎる。ま
だ動ける自分に感謝、宇栄原
若子くちノートより〜
さらさらうれしいことだ。な
んどかこの原稿を書き始めた
時に久しぶりに宇栄原様より
電話をいただいた。やっぱり
つながっているんですね。友
の会。人と人とのつながり。

8月27日
(日) 那覇市保
健所3階にて交
流会を開催しま
す。受け付け12
時30分から。連絡先・全国
パーキンソン病友の会沖縄
県支部 ☎090(8294)1974

通信欄

(又吉)

全国パーキンソン病友の会県支部 太田 守光

心の扉を 開いたら

患者会・福祉団体便り

今から20年前の38歳の時、足を引きずり右手が振れなくなりまりました。「もしかしてパーキンソンか」との思いから病院を転々と渡り歩いたが「脳腫瘍か小脳変性症」と診断されました。進行が進んで42歳にやっと「パーキンソン病」という疾患名が付きましました。

あれから18年間、周囲の手助けや職場の理解もあり仕事を続けることができました。しかし、去年6月あたりから歩行が安定せず、椅子に座っていてもすり落ちることがありました。ついには会議で声も通らず立ち続けることもできない状況となりました。

自らの限界を感じるようになり、6カ月の休職後「まずは体と心を整えて、パーキンソン病と向き合っていかなければ、同じような繰り返しだ」との思いから、2017年3月31日に退職しました。

最も重要なのは自主性であり、どこまで本気に取り組むかだと思えます。あえて言えばパーキンソン病は気の抜けない病気です。毎日の生活を整えておかなければ、人によつては6カ月もたないうちに腰が曲がったり、前に進ん

ピア同士で支え合おう

だら壁にぶつかるとまで止まれなかつたりします。神経の疾患なので全身にさまざまな形で影響を及ぼすことがあるので、情報交換が必要です。

そこで、私たちは午前5時30分から「お自座の会」という集まりを持ちました。1カ月半も同じ部屋で過ごしていると、家族の問題など、プライベートなことが話題になることもありましました。患者さんからは、起きて寝るまで薬が効かず、動けない状態が、効きすぎて体の動きが止まらない症状（ジスキネシア）の繰り返しで、自分も苦しみながらも他の人を気遣っています。Tさんと出会え、生き方を学ぶことができ宝物を得ました。最後に患者さんが主体となつてプロデュースした4カ月に1度の病院コンサートも、大変素晴らしい一人一人が輝いて感動的でした。ピア同士で出合い、助け合い、支え合おう。そのためにも患者会に参加しましょう。

2017. 9月16日

通信欄

24日(日)、那覇市保健所3階にて交流会を開きます。受け付けは午後0時30分から。連絡先は全国パーキンソン病友の会県支部 ☎090(8294)1974 (又吉)。

心の扉を

開いたら

患者会・福祉団体便り

2013年11月に県知事宛てに沖縄県における「障がい者社会参加支援施設整備に関する要請について」という要望書を障がい者団体17団体で出しました。本年度、それに伴う調査費が予算化され、委託先も決定したとのことで10月13日に県の総合福祉センター内で説明会と意見交換会が行われました。

全国ではすでに整備普及されているにもかかわらず、沖縄県では未整備になっていきます。まず県の担当職員から説明を受け、各障がい団体の方々からの意見、質問などがなされました。これから調査が始まるといいますが、実現に結び付くかどうかは、財政面など困難なこともあるかと思えます。

集まった団体の中でも、要望すること、自分たちの不自由な個性に対して必要とするものが違ってきます。ハード面、ソフト面と課題は多く、意見をとりまとめていくと相当大規模な施設が必要になってくるのではないかと思います。それは各障がい者が困っていることが多くあるということになると思います。配布さ

2017年 10月21日 社会参加支援施設の必要性

れた資料に社会参加支援施設等に関する調査結果報告がありました。全国81施設のうち80・2%から回答が得られ、「施設利用の状況」というところに目がとまりました。

難病患者が使える施設にはどのようなものがあるだろうか。私たちパーキンソン病患者にとつて重要なことにリハビリがあります。ぜひ、造ってほしい。機能訓練室、トレーニング室、卓球場などなど。私たちパーキンソン病患者にとつて卓球も有効なりハビリといわれています。全国各地で盛んに行われています。「視覚障害者用卓球場」とあるのにも目を奪われ、障がいによっても違う施設が必要だということに気付かされました。

2020年の東京パラリンピックに向けて、県における障がい者スポーツ・リハビリテーション・レクリエーションおよび文化芸術活動などを通じた社会参加の普及促進を図ることで、全国で世界で、沖縄県民のさらなる飛躍向上につながるかと思えます。

通信欄

22日(日)に予定していた交流会は、台風の影響で中止となりました。問い合わせ連絡先は ☎ 090(8294)1974 (又吉)まで。

心の扉を

開いたら

患者会・福祉団体便り

母が転んで大腿骨を骨折したのは、7年前のことです。手術後にリハビリを始めましたが、効果が上がりず短期間で車いすの生活になりました。脳神経外科を受診するとパーキンソン病進行性核上性まひと診断されました。それで手足が元のように動けないのだと納得しました。

最初の頃、トイレ介助では車いすをトイレ近くまで移動させ、母の両脇を支えゆっくり立たせると、母は両手で取っ手をつかみながら立つことができました。病気が進行していくと、歩けない、話せない、自分で食事を口に運べない、顔は無表情になって寝たきりの状態になりました。

だんだんと筋肉が固まっていく母を介護しながら、先が見えず不安が募りました。ちょうどその頃、新聞で「パーキンソン病友の会沖縄県支部講演会」の案内を目にししました。早速友の会に入会し、病気について勉強する方法が分かり、安心しました。コザクリニックの川平先生より、指定難病への申請ができることを教えてもらい、経済的に大変助かりました。

会への相談が安心感に

介護の悩みを友の会事務所で事務局長の又吉さんに聞いてもらい、気を落とさずに母の世話をすることができました。母は4年間の闘病生活の後天国に召されました。進行性の病気で大変つらかったと思いますが、最後まで父に大切にされていきました。

退職を機に「パーキンソン病友の会」事務局を手伝っています。総会や交流会の受付、名簿作成、資料準備などなど幾らでもやることがあります。会は支部長・事務局長の又吉さんご夫婦を中心に役員の方が、行事の度に協力して会が運営されています。

役員の方はパーキンソン病を治療中の患者さんで、60〜70代の方が主です。医療講演会・交流会を通し最新の情報を得て、会員同士が支え合う会になっています。支部長ご夫婦の事務の仕事量が多いのにはびっくりしました。私にはできるだけ手伝えるようにしたいと思っています。

「全国パーキンソン病友の会眞支部」が、これからもパーキンソン病の方の心の支えになることを願います。

2017年 11月18日(土)
(平成29年)

26日(日)、保階3階
那覇市健康センター
開き午後5時
交流会を受け付けは
連絡先090(8294)1974(又吉)。

心の扉を開いたら

患者会・福祉団体便り

「共生社会」という言葉を耳にしたことがありますか。共生社会は、地域住民が暮らしの中で安心感と生きがいを生み出していけることが重要です。

地域で暮らす一人一人が困難を抱えた場合でも、お互いが寄り添い合って、孤立せず安心して生活を送ることのできる社会だと思います。

私は体調が悪くない限り、毎月二つの模合に出掛けています。この場合は私にとって大変重要な時間です。そこであったことです。模合を終え、友人と妻の迎えを待っていました。車に向かうために席を立ち上がろうとしたのに、身体が思うように動かなくなり、立ち往生していました。その時、近くの席にいた20歳くらいの男性が立ち上がり「私が手伝いましょうか」と声を掛け、手を伸ばしてくれました。彼の厚意を受けるかどうか迷っている時に、同じ席にいた若い男性も立ち上がり、5〜6人で100名ほどある私を持ち上げ車まで連れていってくれました。

その方々は、お礼を言う間もなく店へ戻って行きまし

全国パーキンソン病友の会県支部 島袋 貞夫

2017年(平成29年) 12月16日

若者たちに、ありがとう

た。私は男性たちの行為に感動して、何かお礼をしたいと思いい、店長にお客さんの名前を尋ねると「居酒屋で飲んでいるお客さんはみんな仲間という意識で、いつもやっつけていることだから気にしないでください」とのことでした。

パーキンソン病という病気は、身体が急に動かなくなることもある厄介な病気です。模合の席で動かなくなった時も、仲間が身体を起こしたり、手を引張ったり誘導してくれたりして大変助かっています。

若い男性たちのありがたい一言が健常者、障がい者の共生社会の第一歩だと思えます。外出する時などは準備する段階で、目的地に無事着けるだろうか、転倒したらけがしないだろうかなど、病気になる前は考えもしなかったことを考えてしまい、外出をためらってしまうこともあります。

今回のような経験の延長線上にあるものが健常者、障がい者の共生社会があると思えました。この場を借りて若者たちに、ありがとう。

通信欄

パーキンソン病友の会は、会員の募集、受け付けなど受けています。ご相談などお考えください。連絡先 ☎090(8294)1974 (又吉)